

生涯学習やまがた



山形県生涯学習センターホール

Contents もくじ

●特集「山形の新しい公民館を考える」	2	●生涯学習アラカルト	6
●生涯学習実践者インタビュー	5	●地域の取り組みを紹介します	7

特集 山形の新しい公民館を考える

戦後、公民館が地域住民の活動拠点として設置されてから70年が経ちました。この間、社会情勢の変化にともない、公民館を取り巻く状況もその活動内容も大きく変わってきています。山形県でも、少子高齢化などさまざまな地域課題に直面するとともに、コミュニティセンター（以下「コニセン」）化の動きなども見られます。そこで、今回の特集では山形の公民館のこれまでとこれからを、熊澤義也氏×佐藤嘉男氏×丸山傑氏より現場目線で熱く語っていただきました。

公民館の誕生からこれまで

丸山：私はコミュニティデザインの仕事をを通して社会教育や公民館について考えるようになりました。昭和21年の公民館設置当初の理念に大きく4つのが書かれています。①民主主義を身につける②地域を良くするために必要な教養を身につける③産業と政治を立て直し郷土の生活を豊かにする④うつかり依頼心をおこしてはいけない。つまり、公民館は住民自身が地域の課題解決を図るために総合的な社会教育の拠点ということが根本にあった。コミュニティデザインも、人がつながる仕組みをデザインし

熊澤：蔵増公民館の最初は村役場主導

て住民自身が地域の課題解決を図るための支援をしていく点で共通するものがあると思います。当時は戦後復興と生活改善が大きな課題でしたが、今は、過疎化や若者の貧困・いじめ・虐待・防災など新しい現代的課題が山積しています。国でも、公民館が若者の自立支援拠点、防災拠点などこれまで別々に活動していた団体をつなげるハブとなるよう支援する動きもあります。社会教育の拠点に加え、住民自身がそなった新たな地域課題の解決を図るために拠点施設としての役割を、公民館は求められています。

で青年団や婦人会をつくり学校教育と地域の教育をプラスしたような形の青年学級や婦人学級などから始まっています。昭和29年の合併で天童町になると若妻会や壮年会、老人クラブなどもできました。その活発だった青年団も昭和62年頃、若妻会も平成17年に活動が下火になり蔵増地区からなくなりました。そして、地域の様々な問題が出てくる中で、平成10年あたりに自分たちでできることは自分たちでやろうということで地域づくり委員会という団体ができ部会も立ち上げて、今では公



左から 佐藤氏 丸山氏 熊澤氏

鼎談者プロフィール

熊澤 義也

[くまざわよしや]

昭和22年・天童市生まれ
天童市立蔵増公民館館長
村山地区社会教育推進協議会会長
山形県社会教育連絡協議会副会長
東北公民館連絡協議会会长

昭和62年から蔵増公民館窪野目分館主事、平成7年から同館長。平成17年から蔵増公民館館長。

佐藤 嘉男

[さとうよしお]

昭和39年・鶴岡市生まれ
鶴岡市市民部コミュニティ推進課
課長補佐(社会教育主事)

平成15年から社会教育課社会教育係。平成27年から鶴岡市市民部コミュニティ推進課。

丸山 傑

[まるやますぐる]

昭和58年・千葉県生まれ
東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科講師

コミュニティデザインの立場から社会教育や福祉の現場に携わる。平成27年度山形県社会教育関係職員研修講師。

民館の中心的な活動団体になつていま
す。現在は、趣味の団体の他、婦人会
や壮年会、老人クラブ、そして小さい
地区単位で昔から続いている子ども会
もまだ頑張って活動しています。それら
の活動の中心には昔も今も公民館があ
り、人づくりや地域づくりに果たして
きた役割は大きいと思います。

佐藤…鶴岡市は、戦後間もない頃から「市の振興発展は公民館から」をスローガンに掲げ、公民館活動の推進に力を入れ、優良公民館として多くの公民館が表彰されてきました。趣味・教養講座、講演会、演奏会からPTA活動、生産組合活動、結婚式まで、さまざまな用途で公民館が活用されてきたことからも公民館は地域の拠点であつたと言えます。しかしその後、高度経済成長とともに、生活様式や住民意識なども多様化し地域課題も広範になつたことから、住民がより主体的にそれらの課題に取り組むことを目的に広域自治組織の形成とコミセン化を推進してきました。コミセンは、公民館で実施してきた社会教育事業などに加えて、防災、福祉、環境などの地域課題の解決にも取り組む、社会教育活動、自治活動の拠点としての役割を担つてきました。

現場にまつわる悩みあれこれ



佐藤：本市は、全市域を範囲とする公民館と旧行政区域を範囲とする公民館以外の概ね小学校区を範囲とする公民館をコミセンなどに移行してきました。近年移行した地域では、新たに設立した広域自治組織の運営や、地域が主体となつた社会教育活動などに取り組みながら、徐々に防災、福祉などにも目を向けつつあります。また、移行・新設から30年以上経過した地域では、社

について、住民同士が助け合う仕組み作りが進められています。市としても、教育委員会と市民部が連携して学習活動、地域づくり活動を支援するとともに、地区担当職員制度を設けて、住民として、そして、市職員としてそれぞれの地域の課題解決に一緒に取り組んでいますが、まだまだ発展途上の状況で

丸山…私も社会教育関係職員の研修で「公民館」をテーマにワークショップをして中でいろいろな悩みをお聞きしました。

会情勢の変化に伴い、組織の見直しや
新たな地域課題に対応した取り組みを
模索しています。特に、高齢者に対する
災害時の支援、日常の生活支援など
について、住民同士が助け合う仕組み
作りが進められています。市としても、
教育委員会と市民部が連携して学習活
動、地域づくり活動を支援するととも
に、地区担当職員制度を設けて、住民

館や館長に頼む形が増えてきている。皆が公民館に相談に来るなら、集中して受け皿をつくった方がいいということも言えます。ただ、頼りにされるのはいいんですが、それを全部引き受けるには現場の人員体制や雇用条件は非常に厳しいです。公民館に配属される職員はみんな優秀で、厳しい中で力をつけて帰つていきますけれどもね。

熊澤…私は公民館もヨミセンも結局役割は同じだと思つています。おつしやられましたようにヨミセンで公民館事業もできますし、公民館でヨミセン的なことも全部やれるはずだと思つています。天童市でも公民館に対する要請が強くなる中で、公民館は教育委員会管轄で、区長は市民部管轄ですが、みんな一緒に公民館を中心に活動しています。10年ほど前、地域社会福祉協議会が各館主体でできました。見守り隊は防犯協会が担当ですが小学校と公民館を中心にやっています。蔵増は学童会長も公民館長が兼務ですし、区長会組織にも公民館長が入つていてスホーツ少年団から老人クラブ、青壮年会も公民館がまとめております。とにかくなんでも公民

経験年数が増すほど課題や壁が見えてきて悩みが多くなるようにも感じました。地域の要請が強まっていることもありますから、もう少し職員を増やしたり、人をつなぐコーディネーターを配置できたり、お二人のような経験豊かな方に相談できたりするといいのではないでしようか。

理想の新しい公民館とは

丸山：実は「理想の公民館」についても、そのワークショップで考えてもらつたところです。いろいろな情報を得られて相談できる「町の知恵袋」、いまヨミニティスクールの話もありますが「学校と地域をつなぐ場」、一人で学ぶというより「身近な社会参画の場」、行つたら新しい話が聞けて「人生前向きに考えられる場」といったイメージから、若者が集まつたり交流したりするのに便利な無料Wi-Fiやふらっと行きくなるようなカフェ・サロンや映画館があればいいといった意見。あとは「お金儲け」やりたい活動のための予算を稼げるといい、「軽トラ市」「六次産業の中核」など、楽しい意見もたくさんでました。「ホームページ・フェイスブック」にも取り組みたいけれど専門的な知識がないのでハードルが高いといった意見もありました。

佐藤：公民館、コミセンは、地域の人と情報が集まることが最も重要です。講座や交流事業を企画するのも、人を繋ぐこと、情報の収集・交換が一番の目的。カフェやサロンと言つた地域住民が立ち寄りやすい環境づくり、気軽に相談しやすい環境づくりは良いアイディアだと思います。また、「お金儲け」までは

行かなくとも、地域課題の解決策の一つとして、有償ボランティアやヨミニティビジネスのような仕組みがあると良いと思います。本市でも、除雪の支援や買物・通院等の交通支援、ゴミ出し・掃除等の生活支援などについて、広域自治組織、社会福祉協議会、単位自治組織などが連携して様々な取り組みに挑戦しているところです。ホームページやフェイスブックによる情報発信も地域の活性化に有効だと思います。運営については、公民館、ヨミセンの職員がすべてを担うのではなく、地域の力（得意な方の力）を借りて、柔軟に運営すること、より地域の人々や外の人から親しみを持つてもらえることもあります。

丸山：お一方のお話を伺つて、大きく2つ感じました。一つは、公民館やヨミセンがすぐくいい地域福祉の場となる可能性を秘めていること。福祉関係の現場に伺うと、福祉施設に行きたくないという方も多いうで、もっと自然な形で来れないでの、デイケアのようなことを考えこともあります。今回せつかく新しい公民館になるので何かできないかと新しくて、設立準備委員会に各種団体の代表に入つていただき、「ご意見をお聞きしながら考へていただいているところです。早速中学校の校長先生からプラスバンド部が公民館で合宿できないかという相談が來たがらっていますが、そういうことにも柔軟に対応していきたいと思っています。

熊澤：課題は少子高齢化による人口減少で、子ども向けの事業などは難しくなると思いますが、いろんな分野でかなりの経験を持つた高齢者がどんどん増えているわけで、嘆いているだけでなく、そういう人にもう一度舞台に出てきてもらつて頑張つていただければ、まだまだいろんなことができると思つております。それから、いま蔵増では昭和48年に建てた公民館から文字通り新しい公民館に建てなおしています。蔵増は南北に長い地域で公民館の周りが田んぼということもあり高齢者が気軽にお茶のみ



やまがた藝術学舎

—— 行政と住民がともに学び合い育ち合い創りあげる場、組織や団体の隔てなく「丸となり」様々な地域課題に取り組む場が、今「新しい公民館」に求められていると感じました。本日はありがとうございました。

来ないので、デイケアのようなことを考えさせられます。支える側支えられる側と分けずに多世代が集まり互いに支え合う、「一緒に地域をよくする活動の中で新しい支え合いの関係をつくっていく」それが新しい公民館に求められています。それでも、これから、もう一つは公民館が行政職員も地域住民もいろんな人が学び合う場であるということ。新しい公民館は、一方的に職員が授けるとか育てる場ではなく、まさに住民と職員が共に育ち合う場なのだと思います。

実は私たちも今日の会場であるやまがた藝術学舎で新しい公民館をつくるうというワークショップをやっています。地域の人たちが集い課題を解決するような活動をつくりうるという考え方で「新しい公民館」を二つの目標にしながら進んでいます。山形全体の公民館のつながりづくりや、新しい公民館づくりにお役に立てるようなことがあればこれからも一緒にできたらと思っています。

生涯学習実践者インタビュー

4

山形市立図書館 図書館ボランティア団体
「小荷駄のみどりから…」運営委員長 井上幸弘 氏

います。それから、メンバーの横の繋がりづくりやお楽しみも兼ねて年に一度の研修旅行を行い、他の図書館を見学したり利用者団体と交流しています。市民講座なども行っています。

Q これからどの目標(夢)を教えてください。

地域の様々な分野で活躍する方に光をあて、その活躍を支える”学び”的あり方を探ります。今回は利用者の立場からよりよい図書館を目指し、図書館サポーターとして新たなチャレンジを続けながら活動するボランティア団体の井上幸弘さんにお話を伺います。

Q 「小荷駄のみどりから…」とは?

平成13年4月にそれまで活動していた「図書館団体利用者の会」が母体となり、アンケート調査をしたところ「ボランティア活動がしたい」との回答が多数あり、その結果立ちあがつたのがこの会です。「小荷駄のみどりから…」の「…」には、集まつた人たちから、決まったひとつのものではなく、さまざまな活動が始まるという思いが込められています。現在会員は57名、読み聞かせ(高齢者向け)と児童向けの6つの会)、図書整理、企画広報、事務局の4つのグループがあります。図書館からの依頼の事業を行うだけでなく、図書館や本が好きな「自分」たちが自己実現も含め、持てる力の範囲でやるという姿勢で図書館と二人三脚で活動を続けています。



布おもちゃの貸し出し風景

Q ユニークな取り組みがあれば教えてください。

図書館ボランティアが本を選考し表彰する「小荷駄のみどり出版文化賞」は全国でも珍しい取り組みです。著名な人でなくとも山形市在住の人が出版したもので、「これは!」という本に光をあて市民に発信することを目的として



図書館で行っているおはなし会の風景
(中央井上さん)

います。これまでの積み重ねの上にさらに何が出来ます。図書館へ来館する子どもが少なくなるが、私たちも生涯学び続けながら、活動がマンネリにならないよう新しいことに取り組もうと思っています。例えば、図書館で新しくできた「べにっこひろば」や、上山市にある障がいを持つた子どもが生活している山形県立総合療育訓練センターなど、子どもがいるところに出かけて行くなど、これまでの積み重ねの上にさらに何が出来ます。

図書館自体が日々さまざまな本に触れられ、新しい発見に事欠かない場です。私たちも生涯学び続けながら、活動がマンネリにならないよう新しいことを、もっとたくさんの人たちに感じてもらう、そんな活動ができるればと思っています。そして、図書館で市民が自由に活動するようになるのが私たちの夢です。図書館や本が好きな人、ぜひ一緒に活動してみませんか?

Q 活動の中で大切にしていることは?

市民講座

山形市立図書館ボランティア「小荷駄のみどりから…」の企画による市民講座が開催されます。

3月6日(日) 13:30 ~

演題: 「山形で児童書の翻訳を仕事にすること」

講師: 児童書翻訳家 横山和江氏

定員: 50人

会場: 図書館2階集会室

■講座参加の申込みは、市立図書館まで

電話: 023-624-0822

るのか思案しながらチャレンジを続けています。

Q これからどの目標(夢)を教えてください。

います。それから、メンバーの横の繋がりづくりやお楽しみも兼ねて年に一度の研修旅行を行い、他の図書館を見学したり利用者団体と交流しています。市民講座なども行っています。

生涯学習

アラカルト

生涯学習に関する用語のちょっとした疑問にお答えします。今回は混同されやすい
「社会教育」「生涯学習」「生涯教育」について取り上げてみました。

生涯学習Q&A

生涯学習と生涯教育と社会教育って何がどう違うの?

「社会教育」は学校教育と家庭教育以外の教育活動。「生涯教育」は生涯にわたって学習や教育の機会が備えられるべきという考え方、また学校教育・社会教育・家庭教育をあわせた教育のこと。「生涯学習」は生涯にわたって学習すべきという考え方、また人々が生涯にわたって行う学習のこと。「生涯学習」や「生涯教育」は理念として用いられたり、教育活動や学習活動そのものとして用いられたり、用法で若干捉え方が変わるのでですが、三つの用語の大きな違いとしては、「生涯学習」の主体が学習者であるのに対し、「生涯教育」「社会教育」の主体は支援者や教育者であることです。ですから、学習者の「生涯学習」を支援するのが「生涯教育」であり「生涯教育」の一つの分野が「社会教育」とイメージするとわかりやすいと思います。

ではなぜ三つの用語が混同されやすいのでしょうか?生涯にわたって教育を受けたり学習したりするとの必要性は古くから言られてきましたが、最初に日本で使われた馴染み深い用語は「社会教育」でした。明治期から用いられ、1949年の社会教育法で

明確に定義されると同時に、さまざまな教育活動が繰り広げられ、戦後復興を支えました。その後、高度経済成長など急激な社会の変化の中で、1965年にユネスコの成人教育に関する会議で「生涯教育」の必要性が提唱され、1981年の中央教育審議会では「生涯学習」「生涯教育」が明確に定義されました。そして「社会教育」は生涯学習社会の実現に向けて中心的な役割を担う教育分野として「生涯教育」や「生涯学習」の中で考えられるようになりました。1984年~87年の臨時教育審議会や1990年の「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」(生涯学習振興法)などで生涯学習体系への移行や生涯学習推進体制の整備が進められる中、学習者の主体性や自発性を尊重する視点から、「生涯教育」に代わり「生涯学習」が一般的に用いられるようになってきました。

このような歴史的背景、用法や視点の違いなどから混同されやすいのですが、整理して用いるよう心掛けたいものです。

用語	社会教育	生涯教育	生涯学習
主体(観点)	支援者・教育者(支援する側)		学習者(学習する側)
いつから きっかけ	1949年社会教育法で定義。	1965年ユネスコの成人教育に関する会議で提唱。	1981年中央教育審議会で定義。
定義	学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動。(社会教育法第2条)	生涯学習のために、自ら学習する意欲と能力を養い、社会の様々な教育機能を相互の関連性を考慮しつつ総合的に整備・充実しようとするのが生涯教育。(1981年中教審)	自己の充実・啓発や生活の向上のため(中略)各人が自発的意思に基づいて(中略)必要に応じ、自己に適した手段・方法(中略)を自ら選んで、生涯を通じて行うもの(中略)これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい。(1981年中教審)

主な参考文献 『テキスト 生涯学習—学びがつむぐ新しい社会—第三版』田中雅文・坂口縁・柴田彩千子・宮地孝宣著 2013
『新訂生涯学習概論 ハンドブック』国立教育政策研究所社会教育実践研究センター2010

このまちに
注目!

山辺町

チャレンジ!やまのべ通学合宿

「通学合宿に取り組んで」

■ 内容 ■

通学合宿は山辺町中央公民館から各小学校へ登校する取り組み、4～6年生を対象とした宿泊型の事業です。家族と離れた集団生活の中で「自立心や協調性」を育む目的に加え、食事作りなどの生活体験、もらい湯（よその家庭のお風呂に入らせてもらうこと）等を通して地域の方々との交流」を大きな目的としています。

また、今年度で8回目となった当事業では、高校生以上となつた卒業生にボランティアとしてご協力いただきました。このように、通学合宿は地域参画に好循環を生み出しています。

■ これが大変 ■

布団を家で敷くことはめったにないので大変でした。そのおかげでお母さんの大変さがわかりました。たくさんの友達と仲良くなれて良かったです。また会える日を楽しみにしています。

参加者
Voice



鶴岡市

地域づくりフォーラム

「住民主体による地域づくりに向けて 「限界集落」を乗り越える「未来家族」の創造」

■ 内容 ■

少子高齢化により、多くの住民自治組織では組織の維持・活性化や次世代への引継ぎ等が課題となつています。そこで地域福祉、社会教育の第一人者である大橋謙策先生より講演をいただきとともに、広域コミュニティ組織、単位自治組織（町内会等）の事例発表と各事例への指導や助言をいただきました。このフォーラムにおいて、地域づくりを実践する住民自治組織関係者や生涯学習関係者、地域福祉関係者等が一堂に会し、地域課題の解決に向けた意識付けとともに、参加者相互の理解や課題の共有化が図られました。

■ これが大変 ■

事例発表の時間配分が難しかった。事例発表終了の合図をしなかつたため、発表者の思いが強い分：研修会終了予定時刻を大幅にオーバーしてしまいました。

■ これがうまくいった ■

スタッフ・地域・行政が首尾良く連携できた結果、アンケートでは回答者全員からまた参加させたい・したいとの声をいただきました。

考え方を変えられる、手掛けている気力がでた。同じ悩みを持っている方々が大勢いるんだなあと研修会を通じて感じられ、一種の励みになった。実践に移す場合の手法などの事例も知りたい。

参加者
Voice



地域の取り組みを紹介します

県立図書館

初の図書館まつり開催

『クリスマス・フェスタ』

■ 内容 ■

12月19日、いつもは静かな県立図書館が、賑やかな図書館に変身！遊学館エントランスホール内で「箱古本市（24店舗出店）とミニライブを開催。図書館ではクリスマスツリーとクリスマス関連本を展示。さらに「地下探検ツアーア」（37名参加）で地下書庫や城下町絵図などの貴重資料を見学していただいたほか、書名が分らないよう包装された本を当館職員・ボランティアのすすめコメントをたよりに内容を想像して借りる「ラッピングブック」などの企画を実施しました。

■ これが大変 ■

図書館は通常どおり開館中。静かな図書館を望む利用者からの苦情が予想されましたが、事前及び当日、御理解を得るために丁寧に対応したことから、苦情はゼロでした。

■ これがうまくいった ■

箱古本市山形実行委員会の皆さんのご協力を得て実施。県外からの出店もあり、初めての試みに来館者は普段の土曜日の倍近い約1,450名になりました。

このごろ県立図書館
変わったね!
来るたびに新しい発見があって、来るのが楽しみになりました。

参加者
Voice



生涯学習事業の推進に関する懇話会

四半世紀を経て生涯学習のあり方を再考する

県民の生涯学習を総合的に支援するため、平成2年に整備された山形県生涯学習センターは26年目を迎えました。この間、社会情勢の変化とともに県民の生涯学習を取り巻く環境も大きく変わってきています。

そこで、有識者や市町村関係者、生涯学習施設関係者、活動実践者など外部の方々を招き、これまでの事業などを検証しつつ、これから生涯学習のあり方について考える懇話会を設置しました。

10月末に行われた第1回懇話会では、情報提供事業や人材育成事業、「山形学」推進事業を主軸として生涯学習を推進してきた県生涯学習センターの役割を前向きに評価していただいた一方、「学ぶ・活かす・交わる」という視点から目標をたてシステムをつくり評価する必要があること、「学習なくして活躍なし」「生涯学習振興なくして

地方創生なし」の信念をもって生涯学習を進めるべきといったご意見をいただきました。また、懇話会メンバーそれぞれの地域・立場における取組み状況や課題などが話し合われました。それより力強い優れた取組みを進めいらっしゃる一方で、市町村関係者からは首長部局と教育委員会の連携方法や地域の自主性・特色を大事にした上で行政としての関わり方についての課題が、県内の学習施設からは施設の老朽化や人手不足の課題が、活動実践者からは継続的な生涯学習活動への経済的支援や実践者・グループ間の連携づくりについての課題などがあがりました。

第1回懇話会であげられた課題などを更に話し合い、生涯学習の今後の方向性やあり方について考えていくため、年度内に第2回懇話会を開催することにしています。

山形県生涯学習センター ホームページにアクセス!



山形県生涯学習情報提供システム やまがたマナビイnet

山形県内の生涯学習・文化関連の講座やイベント情報、講師や団体の検索がインターネットでできます。

The diagram illustrates the search process on Yamagata Manabi-net. It shows a user clicking on a search result from the website's homepage. This leads to the Yamagata Manabi-net search interface, which displays various search categories like "講座・イベント", "講師・指導者", and "団体・グループ". Three callout bubbles highlight specific features: one says "発表会の場所を探している" (Looking for a place to hold a presentation), another says "同じ活動をしている仲間を増やしたい" (Want to increase contacts in the same activities), and a third says "講師を探している" (Looking for a teacher).

編集後記

鼎談の中で育ちあう場という言葉が出てきました。この広報紙も読者の方々と共に成長していきたいところです。今年度最後の発刊となります。来年度も『生涯学習やまがた』をよろしくお願ひいたします。(Y)

次回発行は5月の予定です

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 平成28年2月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36 [遊学館]

TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp URL http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/

| 開館時間 9:00~21:00 [夜間利用が無い場合は19:00まで]

| 休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター一分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28

TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

| 開館時間 9:00~21:00 [夜間利用が無い場合は19:00まで]

| 休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始